

中学生向け | 館内で記入

形・動き・くらしを比較する

氏名： 年・組： 見学日： /

目標：観察した事実を根拠に、体の特徴とくらしの関係を考える。

4階・5階で見られる生き物を2種類選ぶ。体の形が異なる種類がおすすめ。

1

比較する観点をそろえて、記録する

観点	生き物 A	生き物 B
名前		
体の形・表面		
動き・使う部分		
いた場所・姿勢		

表面は見える範囲で記録。動かなければ「動かず」と書き、推測で埋めない。

2

共通点と相違点を整理する

共通点：

相違点：

中学生向け | 館内で記入

事実・情報・考察を分ける

氏名：

対象の生き物：

3 体の特徴が役立つ場面を考える

① 観察した事実（実際に見た形・動きなど）

② 展示の説明で確認した情報（食べ物・生息地など）

説明がなければ「確認できず」で可。見ていない食事を見たことにしない。

③ ①・②を根拠にした考察（どんな場面で、どう役立ちそうか）

書き方：「～という特徴があり、～のときに～に役立つと考えた。」

4 ほかの可能性や、確かめる方法を考える

自分の考察だけでは、まだ説明できないこと・別の可能性：

何を追加で観察したり調べたりすれば、考察を確かめられそうか？

観察だけで、生息地や体の動きのすべてが分かるわけではありません。

中学生向け | 館内+事後学習

人と生き物の関わりを考える

氏名：

5 観察ルールの意味を考える

「水槽をたたかない」「大きな声を出さない」のどちらかを選ぶ。

選んだルール：

そのルールは、生き物にどのような配慮をしていると考えられるか？

6 学校に戻って、根拠を確かめる

2ページ目の考察や疑問から、1つ選んで本・公的機関などの情報で調べる。

調べる問い：

分かったこと・考えが変わったこと：

資料名・発行元（サイトの場合はURLも）と確認日：

7 短くまとめて、共有する

「観察したこと→考察→調べて分かったこと」の順で、友達に説明しよう。

さらに調べたい問い：

先生用 | 生徒への配布不要

指導の手引き・解答例

印刷・時間の目安

A4・白黒印刷可。生徒には1～3ページを配布。筆記用具を持参。
館内30～45分＋事後学習20～30分を想定。移動・受付時間は別途確保。

ねらいと使い分け

比較観察、根拠に基づく考察、資料での検証を通じ、探究の基礎を学ぶ。
未習事項は説明を補助。短時間の場合は課題1～3を中心に、残りを事後学習に。

課題1・2：記録例

例：魚「ひれがあり泳いだ」／ヘビ「細長い体をくねらせて移動した」。
共通点は観察できた範囲で記録。動かない個体や、見えない部分の未記入も可。

課題3：考察例

例：ひれを動かして泳いだことから、水中での移動に役立つと考えた。
観察事実・展示情報・本人の解釈を分けられているか確認。丸暗記は求めない。

課題4：検証の例

例：向きを変えるとき、どのひれをどう動かすか、もう一度静かに観察する。
資料で体の動きを調べる方法も可。動かすために刺激したり給餌したりしない。

課題5～7：評価の視点

例：音や振動で生き物を驚かせないため。理由を自分の言葉で書ければ可。
資料の出典、事実と考察の区別、考えの更新を評価。結論の一致だけで採点しない。

展示・体験の条件

公式サイト¹の魚・爬虫類の展示を参考に、当日見られる種類を選ぶ設計。
屋上見学・接触・給餌・スタッフ解説なしで実施可。展示説明がなければ未確認で可。

安全・来館条件

静かに観察し、水槽をたたかない・走らない。接触時はスタッフの案内に従う。
雨天時は屋上見学不可。バス来館・昼食不可。体験と追加料金は別途事前相談。

参考：アクアパーク川越 公式サイト・施設紹介・ご利用ガイド

<https://gaia-ent.co.jp/>（確認日：2026年10月24日）

展示状況は変更される場合があります。来館条件は施設からの提供情報によります。